

**生産者として顔の見える農業で
経営発展を目指して！**



米子市認定農業者 株式会社ローソンファーム鳥取
米子市 代表取締役 足羽 直美

生産者として顔の見える農業で 経営発展を目指して！

米子市認定農業者 株式会社ローソンファーム鳥取

1. はじめに

【ローソンファーム鳥取設立の経緯】

自社として農業生産に乗り出したきっかけは、企業グループである(有)岡野農場で作ったダイコンを同じくグループ企業の(有)大根屋での加工を行っていますが、消費者に企業の顔が見えない状況にありました。

そこに主要取引先であるローソンから生産についてローソンプラントで統一して行って欲しいとの要望が挙がり、皆様もご存知のとおり社会的に認知されている企業であり、農業支援を積極的に展開しているローソンから、ネームヴァリューとしてもPR効果は絶大であるローソンプラントを企業名としていただき、ローソン専用ダイコン生産会社として新たに「ローソンファーム鳥取」を平成24年度に設立しました。

平成25年には米子市の認定農業者の認定、以後農地を借り入れ、農業生産に必要な機械類、人員を岡野農場から借りて、ダイコン生産に着手してまいりました。

現在、全国のローソンおでんダイコンとしての生産を引き受けており、売上高はローソンファーム生産として 円（約1万店、シェア100%）に達しております。

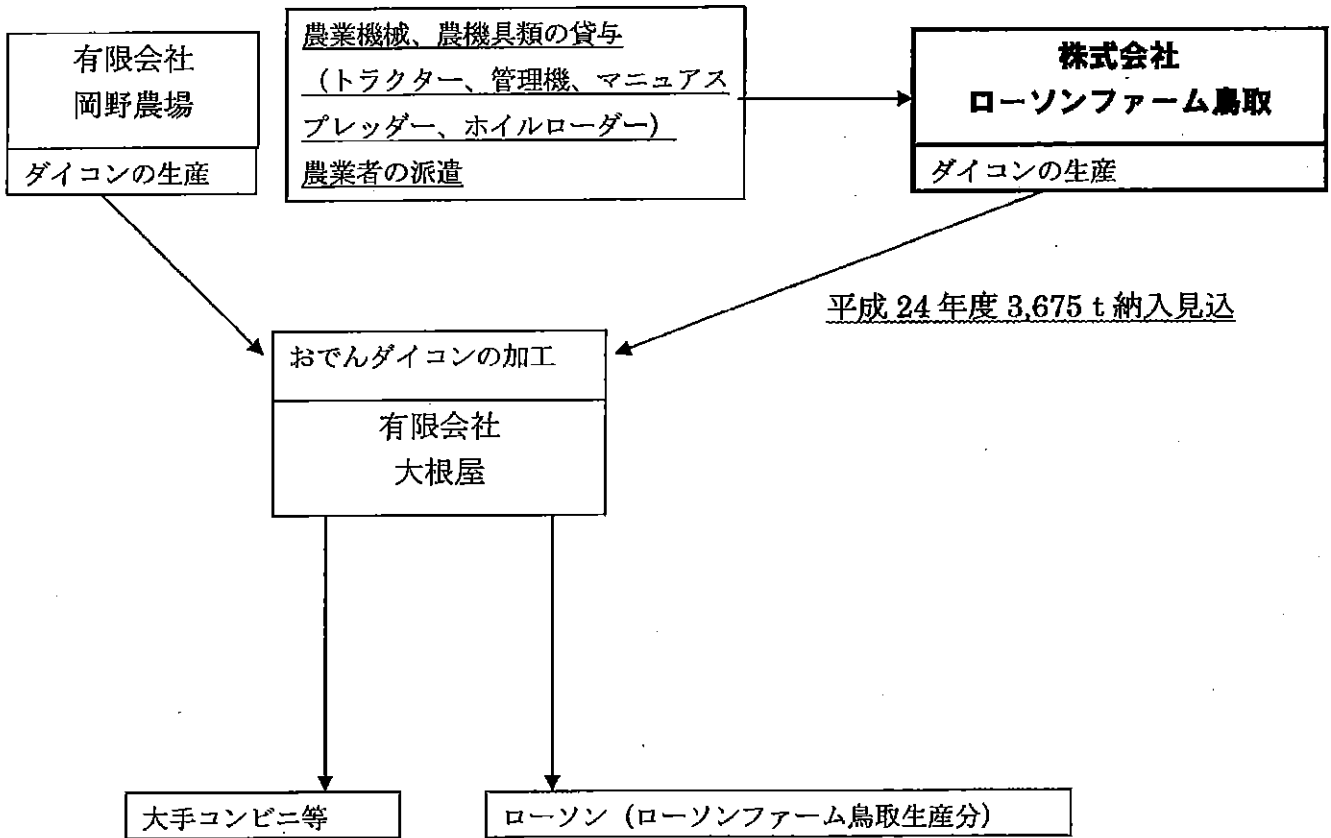
この事業に取り組むことにより、会社所在がある米子市を中心として鳥取県西部の遊休農地解消にもより一層積極的に取り組み、さらなる作付面積拡大を図り、原材料であるダイコンの生産増とダイコンの安定供給を実現し、なおかつ消費者にローソンプラントによる安心感を持ってもらうため、本当の意味での、顔の見える農業の具現化でさらなる経営発展を図りたいと思います。

(※補足 岡野グループについての説明)

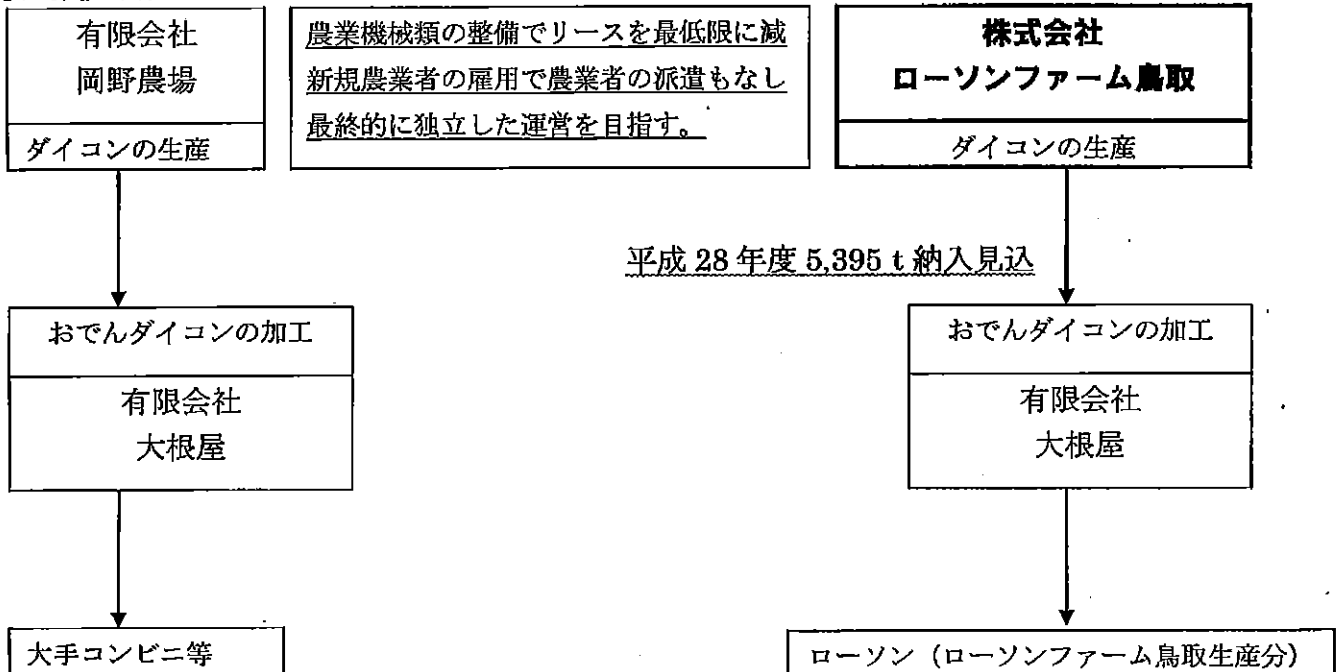
(有)岡野グループは平成6年に地元産野菜（ダイコン、白ネギ、ゴボウ、里芋）生産するために(有)岡野農場を設立し、平成15年に(有)岡野農場の加工部門として(有)大根屋を設立し、農業と加工の一体化を目指した企業グループです。

岡野グループ 3 社の関係

【現状】平成 24 年



【目標】平成 28 年



2. 生産・経営の現状

1) 経営の現状

平成 25 年は鳥取県西部を中心に約 43.3ha を作付し、新鮮な内に全量（約 4,000t）を米子市に所在する大根屋に販売している。

表 1 ダイコンの売り上げ実績と計画（ローソンファーム生産分）

	H24 年（実績）	H25 年（見込み）
作付面積（ha）	43.3	43.3
生産量（t）	3,675	3,675
売り上げ（指数）	100	100
単価（円）		

表 2 市町村ごとの作付面積（ha）

	合計	米子市	江府町	伯耆町	大山町	琴浦町
H24 年度（実績）	43.3	8.4	28.8	0.6	2.9	2.6
H25 年度（見込み）	43.3	8.4	28.8	0.6	2.9	2.6

表 2 グループ企業 3 社の農地面積（ha）（平成 25 年 9 月時点）

会社名	ローソンファーム 鳥取	岡野農場	大根屋
農地面積	43.3ha	80ha	16ha
生産物	ダイコン	ダイコン、白ネギ、 ゴボウ、里芋	ダイコン、ジャガ イモ

表 3 労働力と役割分担（平成 25 年）

氏名	年齢	年間労働 日数（日）	作業内容
足羽 直美		270	社長、生産部門
		270	取締役
	--	270	取締役
常時雇用	10 名	260	生産部門
臨時雇用	0 名		

表4 グループ企業が所有する施設および機械類

会社名	ローソンファーム 鳥取	岡野農場	大根屋
所有機械	なし	80馬力トラクター	100馬力トラクター
		80馬力トラクター	ミニショベル
		30馬力トラクター	深耕ロータリー
		30馬力トラクター	
		20馬力トラクター	
		20馬力トラクター	
		管理機×7台	
		農薬散布用ブーム	
		深耕ロータリー	
		ホイルローダー×2台	
		マニユアスプレッダー	

3. 経営の課題と解決方策

1) 問題点と課題について

現在の問題点は、農作業の機械類をグループ企業である岡野農場から全て貸与された状態であり、自社所有の農作業機械が一切ないことです。

故に収支表のとおり作業委託と機械類借り受けを行っている状況により別途経費（H24年度実績で6千万）が掛かっている状況です。

岡野農場も事業拡大によって現状の機械使用状況が逼迫しており、ローソンファームとしても作業員も足りず経費を投入しても、まず、このまま農機具類を借り続けることもままならない状況となっています。

本年度も農作業機械、作業員が足りず耕耘、播種が遅れ気味(作付遅れ約35ha)なところに先の降雨による水害など、ローソンファームのみならず、グループ全体の計画についても作付け及び収穫が滞る、はては収穫までも出来ない多くの畑が出てしまいました。

同グループ大根屋で行われている加工についても、受注供給が賄えず、県外産のダイコンを仕入れる状態となってしまいました。県外産のダイコンの仕入れは平成24年度実績ではkg当たり 円（ローソンファーム生産分kg当たり 円）となり、総額で 円以上の買取り額となってしまいました。

そこで、ローソンファーム鳥取では本事業活用により、グループ企業から経営を独立すべく機械の整備等を行うことで現状の課題解決及び面積拡大の計画を掲げる次第です。

2) 具体的な課題として

○機械保有がないため生産過程において具体的には下記の作業が課題点として挙げられる。

- ・ア 計画的な大規模な畑の耕耘が出来ない。
- ・イ 収穫作業を行うにあたり、大規模な畑のため手作業ではあまりに非効率、手作業では不可。
- ・ウ 近年の天候不順による排水対策他、圃場整備が必要。
- ・エ 特に除草作業については規模が大きく手作業は不可能。
- ・オ 同じく薬剤散布についても規模が大きく手作業は不可能。
- ・カ 同じく堆肥投入についても規模が大きく手作業は不可能。
- ・キ 同じく温度対策、防虫対策等マルチ掛けが必要。
- ・ク 耕作放棄地の開墾にあたり、土壌が硬く通常のロータリーは不十分。

3) 課題の解決方策、取り組みなど

1 課題点と必要機械について 表5

	課題点	必要機械
ア	大規模の畑の耕耘作業に必要なトラクターがない	大規模の畑が中心になるので97、83馬力のトラクターが必要
イ	収穫時フレコンバックに入れたダイコン(約500kg)を畑の外に出す手段がない、畑の外に出すのに100mある畑もある為、手作業は不可能。	収穫した畑はデコボコになっており悪路でも走行できるホイールローダーが必要。フレコンバックは約500kgある為、安定走行には0.5バケットタイプが必要
ウ	近年の天候不順に対応する圃場の縁明渠施工、播種後の除草。	管理機が必要。大規模な畑が点在するため4台必要。
エ	大規模な畑を手作業で除草するのが不可能。	大規模な畑に適した、80馬力以上のトラクターに装着できるモアが必要
オ	大規模な畑の為、農薬散布を手作業でするのは不可能。	大規模の畑に対応した15mタイプの農薬吹き出しのブームが必要。
カ	大規模の畑に堆肥投入する手段がない。	大規模の畑に対応した、80馬力以上のトラクターに装着できるマニュアルスプレッターが必要。
キ	ダイコンの播種する際にマルチ掛けするトラクターがない。	播種の際のマルチ掛けに必要なトラクターは小回りが必要なため20、30馬力のトラクターが必要。
ク	耕作放棄地は畑の土が硬くなりやすい為、土を細かくする必要がある。(現状も土が固くダイコンの生育が悪い) 普通のトラクターのロータリーでは細かにならない。	土を細かくするアッパーロータリーが必要。

課題及び生産面積拡大計画に対しての今後3年間の自己資金対応、作業効率などを考慮し優先順位決定、機械導入予定を作成。(表6、7)

表6 機械導入予定表

項 目	H26	H27	H28
大型トラクターの導入 (97馬力×1、83馬力×4)	<u>導入</u> (97×1) (83×1)	<u>導入</u> (83×1)	<u>導入</u> (83×2)
収穫用ホイールローダーの導入 (0.5バケット)	<u>導入</u>		
モアの導入(作業幅2.5m)	<u>導入</u>		
管理機の導入(4.6kw)(4台)	岡野農場から リース対応	<u>導入</u>	
除草、農薬散布用ブームの導入	岡野農場から リース対応	<u>導入</u>	
アッパーローター(仕上げ用)	岡野農場から リース対応	<u>導入</u>	
播種用トラクターの導入 (30馬力×1、20馬力×2)	岡野農場から リース対応	<u>導入</u> (30×1)	<u>導入</u> (20×2)
マニュアルスプレッターの導入(6㎡)	岡野農場から リース対応	岡野農場か らリース対 応	<u>導入</u>

表7 生産面積の拡大計画(ha)

	H25年 (実績)	H26年 (計画)	H27年 (計画)	H28年 (計画)	生産地域
ダイコン	43.3	43.3	52	65	米子市、江府町

(※地域ごとの拡大計画は後述)

2 課題解決のための方策について

○事業活用による機械導入と並行し、下記の取り組みを行います。

- (a) 鳥取県西部の遊休農地を地元農業委員会と協力しながら有効活用し農地の集積を行う。
- (b) 緑肥等で連作障害対策を行い、反収品質維持も達成する。
- (c) 農業機械の大型化による省力生産を行う。
- (d) 大型トラクター等の運転に必要な農耕車限定大型特殊免許を取得し、将来のオペレーターの育成を行う。



(マルチ掛け)



(作付大規模ほ場)

○労働人員の確保について

雇用労力を創出のため、鳥取県版農の雇用を活用し、作業オペレーターについては、大型トラクター等の運転に必要な農耕車限定大型特殊免許を鳥取農業大学校の支援を受け平成26年にグループ企業全体でも15名取得予定としている。

表8 雇用計画

		H24年 (実績)	H25年 (計画)	H26年 (計画)	H27年 (計画)	H28年 (計画)
生産 部門	常時雇用	3	7(10)	3(13)	3(16)	1(17)
	農の雇用	0	2	3	3	1

※ () は総従業員数

○取組みと役割分担について

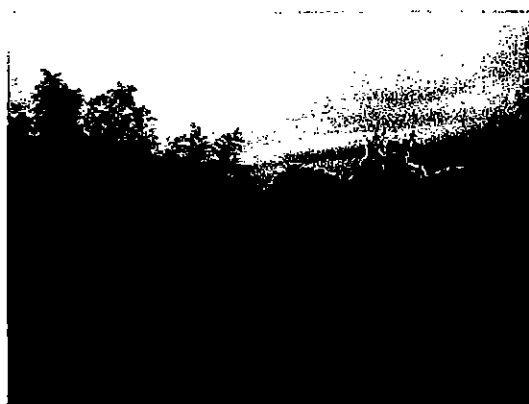
表9 機械の導入計画

項 目	H26	H27	H28
大型トラクターの導入 (97馬力×1、83馬力×4)	◎ (97×1) (83×1)	◎ (83×1)	◎ (83×2)
収穫用ホイールローダーの導入 (0.5バケット)	◎		
モアの導入 (作業幅 2.5m)	◎		
管理機の導入 (4.6kw) (4台)		◎	
除草、農薬散布用ブームの導入 (1000リットル)		◎	
アッパーローター (仕上げ用) (10a 当り 25分)		◎	
播種用トラクターの導入 (30馬力×1、20馬力×2)		◎	◎
マニユアスプレッダーの導入 (6㎡)			◎

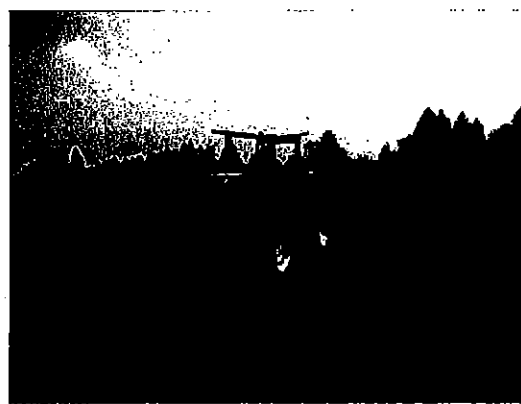
事業者としての取組

大山山麓・弓浜の遊休農地集積	○	○	○
----------------	---	---	---

役割分担：がんばる農家プラン支援事業◎、本人○



(耕作放棄地 伐開作業)



(大型ほ場耕運)

4. 今後の生産・販売計画目標

1) 販売額について 表 10

	H25年 (見込み)	H26年 (計画)	H27年 (計画)	H28年 (計画)
作付面積 (ha)	43.3	43.3	52.0	65.0
生産量 (t)	3,675	3,675	4,316	5,395
売り上げ (指数)	100	100	117	147
単価 (円)				

2) 生産面積の拡大計画について (ha)

面積拡大計画表 (ha) 表 11

年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
地区名	ローソン ファーム	ローソン ファーム	前年比 (ha) (%)	ローソン ファーム	前年比 (ha) (%)	ローソン ファーム	前年比 (ha) (%)	ローソン ファーム	前年比 (ha) (%)
江府町	28.8	28.8	-	32.9	(4.1ha) (114%)	38.9	(6.0ha) (118%)		
伯耆町	0.6	0.6	-	0.6	-	0.6	-		
大山町	2.9	2.9	-	2.9	-	2.9	-		
米子市	8.4	8.4	-	13.0	(4.6ha) (155%)	20.0	(7.0ha) (154%)		
琴浦町	2.6	2.6	-	2.6	-	2.6	-		
合計	43.3	43.3	(100%)	52.0	(8.7ha) (120%)	65.0	(13.0ha) (125%)		



(収穫風景)

5. 事業の効果及び影響

事業活用により下記の効果が見込まれる。

- (1) 全てを自社生産対応のため、安定供給が見込まれ、増加注文に対しての速やかな納品が可能となり、利益向上が図られる。
- (2) 設備投資等を積極的に行うことで生産安定が図られ、県外産作物買い取りなど不要な経費削減を実施。同様に作業委託費及び機械借り入れの作業経費も削減出来るため、現状の厳しい営農経営状態から脱却し、一時的な利益減の想定はあるものの、結果として利益向上が見込める。
- (3) 経営規模の拡大に伴い、地元の従業員の雇用を促進する。
- (4) 機械導入したことにより、作業の効率化が図れ、繁忙期の集中的な業務超過が緩和する。
- (5) 面積拡大に取り組むことにより、現在、各地に点在する耕作放棄地を借り受けて耕作、農地として活用を推進する。

支援事業内容一覧表

年度	規格	台数	事業費 (千円)	負担区分			実施年 度	導入機械の説明
				本人1/2	県 1/3	市 1/6		
平成26年度	導入機械							
	トラクター	1	8,900	4,450	2,967	1,483	26年	大規模の畑での耕耘作業に必要、97と83馬力の2種類あるのは様々な形状の畑に対応する為
	トラクター	1	7,300	3,650	2,433	1,217	26年	
	収穫用ホイルローター	1	3,760	1,880	1,253	627	26年	フレコンバックに収穫した大根を圃場の外に出す為必要、畑を作業するのにホイルローターが最適。
	モア	1	1,100	580	347	173	26年	大規模の畑での雑草の処理に必要。80馬力以上のトラクターに装着できる。
平成26年度計				21,060	10,560	7,000	3,500	※単年支援上限に達するためモアは本人負担増
平成27年度	導入機械							
	管理機	4	1,328	443	664	221	27年	※平成27年は鳥取県版農の雇用活用のため、県2分の1に高上
	トラクター	1	7,300	2,433	3,650	1,217	27年	近年の天候不順に対応する圃場の額縁明渠施工、除草に必要。
	農薬散布用ブーム	1	3,800	1,267	1,900	633	27年	大規模の畑での耕耘作業に必要。
	アッパーローター	1	1,300	433	650	217	27年	大規模の畑での農薬散布に必要。 畑の表層を細かくし、作物の生育を良くするために必要
	トラクター	1	3,500	1,167	1,750	583	27年	播種の際、マルチをかける時必要。30馬力は比較的大きい畑に適している。
	収穫用ホイルローター	1	3,760	1,253	1,880	627	27年	フレコンバックに収穫した大根を圃場の外に出す為必要、収穫を2箇所に分かれてする時に2台目が必要
平成27年度計				20,988	6,996	10,494	3,498	
平成28年度	導入機械							
	トラクター	2	14,600	4,867	7,300	2,433	28年	※平成28年は鳥取県版農の雇用活用のため、県2分の1に高上
	トラクター	2	4,200	1,400	2,100	700	28年	大規模の畑での耕耘作業に必要。 播種の際、マルチをかける時必要。20馬力は小回りが効き様々な畑に対応できる。
	マニエースブレッダー	1	2,200	733	1,100	367	28年	大規模な畑での堆肥散布時に必要。
平成28年度計				21,000	7,000	10,500	3,500	

栽培面積拡大計画と機械使用計画について

	25年	26年	27年	28年
ダイコン栽培面積 (ha)	44	44	52	65
97馬力+83馬力トラクター必要台数	3.1	3.1	3.6	4.6
導入合計台数		2	3	5
岡野農場からのリース台数	2	1		
1日当たり機械稼働時間		8.2	9.7	
30馬力+20馬力トラクター必要台数	2.0	2.0	2.4	3.0
導入合計台数			1	3
岡野農場からのリース台数	2	2	1	
1日当たり機械稼働時間			9.5	
フレールモア必要台数	0.7	0.7	0.8	1.0
導入合計台数		1	1	1
岡野農場からのリース台数	1			
1日当たり機械稼働時間				
マニュアルスプレッダ	0.6	0.6	0.7	0.9
導入合計台数				1
岡野農場からのリース台数	1	1	1	
1日当たり機械稼働時間				
アッパーローター	0.6	0.6	0.7	0.9
導入合計台数			1	1
岡野農場からのリース台数	1	1		
1日当たり機械稼働時間				
ブームスプレイヤ	0.6	0.6	0.7	0.9
導入合計台数			1	1
岡野農場からのリース台数	1	1		
1日当たり機械稼働時間				
管理機	2.4	2.4	2.8	3.5
導入合計台数			3	4
岡野農場からのリース台数	3	3		
1日当たり機械稼働時間				

作業可能日数 (日) 作業可能面積 (ha/日) 作業回数 (回)

50 2 7

44 0.5 1

33 2 1

25 2.8 1

37.5 2 1

112 3.1 5

31 0.6 1

(上記の根拠数字は、別紙のとおり)

※各種機械の必要台数は、作業可能日数、作業可能面積、作業回数を乗じた数字で栽培面積を割って算出した。

※導入合計台数は本事業で導入する台数

※1日当たりの機械稼働時間は、必要台数が導入(または借入)台数を上回った場合に算出した。

8時間/日労働を基本とするため、8時間を超える場合はオペレーターを2交代制にするなどして対応をする。

<機械導入の考え方と優先順位について>

- ・岡野農場から独立し、ローソンファームを設立した後、取引先からの要望もあり25年は急激に栽培面積を増加させてきました。
- ・25年は機械類を全て岡野農場から借り入れて栽培を実施したが、機械の絶対量が不足し天候不順も重なり、約1ヶ月遅れの播種作業となりました。
- ・このことは、これまでの急激な事業拡大の歪みがでたもので、大いに反省するところです。
- ・反省を踏まえ、事業を活用し3年間かけて、主要な機械類の整備をすすめていきたいと考えています。
- ・優先順位として、岡野農場から借り入れが困難な大型トラクター(97馬力、83馬力トラクター)を導入をいち早く進めたいと考えました。
- ・また、収穫運搬用のホイールローダーも早くに導入が必要です(別紙)。
- ・飲立て用の小型トラクターについては、27年に1台、28年に2台と導入ペースが遅いですが、オペレーターを2交代制にして対応したいと思います。
- ・3年後には、機械も人も無理をしないで作業が出来るようになり、本当の企業経営ができるよう計画を進めていきます。

